

DESIGN-R®2020 DDTI / DU 深さD 判定・毎日再評価シート

DDTIとDUは明確に二分できません。急性期の深部損傷疑い、壊死による深さ判定不能、時間経過を総合して整理します。

評価日	年 月 日	部位	担当者
-----	-------	----	-----

POINT | DDTIとDUに明確な線引きはありません。DDTIは比較的急性期、DUは慢性化して壊死組織が明瞭な場面という時間的要素も考慮します。

1 | まず4ステップで整理

1	発生経緯を確認	持続する圧迫・ずれ、発症時期、発見までの経過を確認する
2	DDTIを疑う情報を集める	急性期＋皮下組織より深部の損傷疑い。視診・触診に加え、必要時は補助データも確認する
3	DUを検討	壊死組織で創底が覆われ、最深部を確認できず、深さの判定が不能ならDUを検討する
4	毎日再評価	DDTIは毎日フィジカルアセスメント。DDTI / DUとも深さが判定可能になればDを変更する

2 | DDTIを疑う情報

- ☐ 発赤・紫斑・浮腫など急性期の変化
- ☐ 水疱・びらん・浅い潰瘍（あってもDDTIを否定しない）
- ☐ 硬結／泥のような浮遊感
- ☐ 周囲との皮膚温差（温かい・冷たい）
- ☐ 疼痛・圧痛
- ☐ 持続する外力・発生経緯が確認できる
- ☐ 必要時：血液検査・画像診断などの補助情報

3 | DUを検討する情報

- ☐ 壊死組織が創底を覆っている
 - ☐ 最深部を確認できない
 - ☐ 深さを推測するしかない
 - ☐ 時間経過で壊死組織が明瞭になっている
 - ☐ 創底が確認できたらDを更新する
- 注意：壊死組織が一部にあるだけでDUとはしない

4 | 毎日再評価ログ（深達度が明らかになればDを更新）

日付	色調・表面	触診	創底・壊死	D判定	次の対応

安全確認 | 泥のような浮遊感に加えて膿の貯留が疑われる、または握雪感を認める場合は、壊死性軟部組織感染症を十分考慮し、D判定だけで完結せず速やかに医師へ報告・相談します。

5 | 当日の記録

当日D判定	☐ DDTI ☐ DU ☐ D3 ☐ D4 ☐ D5 ☐ その他（ ）
判断根拠	
次回比較する項目	

※本資料は日本褥瘡学会の公式記録用紙ではなく、DDTI / DUの判断・再評価を整理するための独自補助資料です。施設基準・医師の指示・公式資料を優先してください。

出典：日本褥瘡学会、改定DESIGN-R®2020 コンセンサス・ドキュメント、2020。
https://www.jspu.org/medical/books/docs/design-r2020_doc.pdf